

## 授業科目 解剖学実習

【担当教員名】 山口 康昭、西野 幾子		対象学年	1	対象学科	視機	
		開講時期	後期	必修選択	必修	
		単位数	1	時間数	30	
【ディプロマポリシーとの関連性】						
知識・理解		思考・判断		態度		
◎		○		◎		
【概要・一般目標：GI0】 人体の正常な構造と機能を理解するために人体模型や組織を観察し、それらを理解する。 交連骨格標本、分離骨標本を用いて、人体、特に骨格系を立体的に理解する。 模型を用いて、人体、特に視覚器官を理解する。 人体組織と視覚器官の微細構造を光学顕微鏡的に観察し、それらを理解する。						
【学習目標・行動目標：SBO】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身、特に頭部の個々の骨を見分け、身体のどこにどのような方向に位置しているかを説明できる。</li> <li>2. 骨模型をスケッチし、部位と名称を説明できる。</li> <li>3. 視覚器官の各構成成分を模型上で指示し、説明できる。</li> <li>4. 眼球・動眼筋・網膜の構造を模型上で説明できる。</li> <li>5. 上皮組織・神経組織・網膜の微細構造を理解し、その特徴を概説できる。</li> </ol>						
回数	授業計画・学習の主題				SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション 実習の概要と諸注意					実習
2	骨学実習1：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
3	骨学実習2：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
4	骨学実習3：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
5	骨学実習4：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
6	骨学実習5：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
7	骨学実習6：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ				1,2	実習
8	視覚器官模型実習1：眼球				3,4	実習
9	視覚器官模型実習2：眼球				3,4	実習
10	視覚器官模型実習3：動眼筋				3,4	実習
11	視覚器官模型実習4：網膜				3,4	実習
12	組織学実習1：上皮組織の観察とスケッチ				5	実習
13	組織学実習2：上皮組織の観察とスケッチ				5	実習
14	組織学実習3：神経組織の観察とスケッチ				5	実習
15	組織学実習4：網膜の観察とスケッチ				5	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)						
参考書						
その他の資料		実習要項を初回に配布				
【評価方法】 実習態度および出席状況、スケッチ、定期試験（筆記試験）の総合評価による。			【履修上の留意点】 実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。 スケッチブック（指定）、色鉛筆、PCが必要。 実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。			